

栄えあり上峰

学ぶ心
磨く心
鍛える心

上峰中学校生徒指導部だより（文責 矢動丸）R7.4.10

こだわります

新しい一年がスタートしました。春休み明けにもかかわらず、当たり前のように朝から、読書が始まり、昼休みには多くの元気な声がグラウンドに響き渡っており、落ち着きと活気あるスタートを迎えています。

さて、90 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。中学生になるにあたって、様々な目標をもって、頑張っていこうと意欲があらわれていることと思います。具体的にどんなことを頑張ればよいのでしょうか。

中学校というところは、あなたが将来、社会に出たとき、その社会の厳しさを乗り越えていけるように、しっかりとした土台となるものを学ぶ場所です。誰でも、今現在、未来や運命は定まっているものではありません。将来は、良くも悪くもあなた次第で何にでもなれます。

運命は、自分が選び、開いていくものなのです。未来は、今何をしているかということが積み重なったものなのです。

そのために上峰中は、学んだことをしっかりしまっておく、心の器（コップ）をしっかりと立てることを大切にしていきます。あなたが自立した人になってもらうために、保護者、先生、地域の大人の方がたくさんのアドバイスをしてくれます。それを大事にしまっておく「心のコップ」が倒れていたり、ひっくり返ったり、穴が開いていたりしたら、どんなに素晴らしいアドバイスを心の中に注いでも、こぼれるばかりで一滴もたまりません。

心のコップが立たないまま、大事なことを何も学ばないで卒業し、いつまでたっても、焦点が定まらない生き方をし、苦労したり、人生損をしたりしてしまう人が少なくないのです。

だからこそ、上峰中では、生活の三本柱「挨拶、掃除、時間」・・・など、当たり前のことを

通して、心のコップをまず立てることにこだわります。これが皆さんの運命を切り開く、第一条件だと考えているのです。

第二の条件は、どんな小さなことでもいいから、決意することです。自分のことだけではなく、小さなよいことを決意することです。それを決めたらやり続けることです。誰にでもできる簡単なことを誰にもできないくらいやり続けることで本物になっていく。これもこだわります。

最後に、第三の条件は出逢いを大切にすることです。友人、先生、色々な出逢いがあります。出逢いをおろそかにした人で、人生が良くなった人はいません。

新入生の皆さん（2、3年生も）、まずは自分にできることをやりきって、自分の心のコップを“まっすぐ”立てていきましょう。

令和7年度版 昨年度からのきまりの変更点

- ・新しい制服が導入されていますが、従来の制服（おさがり等）でも、着用は可能です。
- ・ジャケットの内側に、Vネックの長袖またはベストのセーターの着用を認めます。
- ・シャツを着る場合は、原則、ネクタイ、またはリボンの着用をお願いします。ただし、夏季等についてはクールビズの観点から外すことも認めます。
- ・リュックは、背負う。かご入れやたすき掛けは安全を考慮し禁止とします。
- ・自転車乗車時は必ずヘルメットを着用すること。
- ・レインシューズ等は禁止していませんが、その後の学校活動の中で運動靴が必要になる場合も十分想定して、別にスクールシューズを持ってくるなどの対応をお願いします。

今後もきまりについては生徒会を通し生徒との合意を図りながら、その時の情勢等を十分考慮した上で、検討してまいります。保護者のみなさまにはご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。

チームスポーツの勝利

昨年も同様の話をしましたが、WBC では感動的な日本代表の優勝で終わりました。ネットやテレビでも連日、朝から晩まで WBC の話題で持ちきりでした。私が一番心に刺さったシーンは、決勝トーナメント、イタリア戦での、大谷選手のバントでした。

前の試合で、150m級のホームランを打つスター選手が、バントを「選択」することにびっくりでした。そして、試合後のコメントで「あの場面に関しては、ヒッティングするプライドというか、そういうのはなかったですし、日本代表チームの勝利より優先する自分のプライドはなかった」と答えたのでした。

私は、大谷選手は、誰かのために、あえてこの言葉を口にしたのかなと感じたのでした。チームの中には、思うように投げれなかったり、思うように打てなかったり、自分の思い描いたところで投げれなかったり、自分が望む打順ではなかったり……。そんなことで、自分のプライドと闘って苦しんでいた人がいて、その人たちのことを思って、プライドという言葉をあえて口にしたのではないかと思えたのでした。

誰もが別格のスターと認める大谷選手が、チームのためには、と言うのです。それは考えさせられますよね。

もちろん、本当にみんなが「チームのために」となるためには、チーム全体に、目的意識が共有されないといけません。仲良しこよしという、みんなで手をつないで輪になり、互いに見つめ合って、という姿を想像しますが、本当の意味でのチームワークは、全員が「同じ方向を向く」ことです。

たぶん、大谷選手の言葉に、みんながハッとさせられ、悩んでいた人たちも、同じ方向を向くことができ、自分が貢献できることを全力で頑張ろうと思ったのではないのでしょうか。

そういえば、大谷選手の試合後のコメントでは、自分が打てたとか打てなかったとか、そんな自分の結果についてはほとんどコメントしませんでしたね。彼が話すことは、まず、チー

ムの勝利のこと、その次が、チームメイトの誰かが活躍してくれたことを称賛していました。他人の喜びを自分の幸せとできる人。やはり、本物ですね。大谷選手はまさしく、チームの鑑（かがみ）でした。

中心選手の意識や言動はチーム内に大きな影響を与えます。部活動でもそうですが、中心選手がいい加減だと、後輩にいい加減さが伝わり、しまらないチームになることは多々あります。新三年生は「本当のリーダー」を目指していきましょう。

そして、「誰かのために闘う力」はやっぱりすごいと思いました。人は、自分のためだけに闘うのには限界があります。自分のためだけだったら、きつくなれば、あきらめたらいいわけですから。それが、仲間のため、支えてくれた人のため、応援してくれる人のため、代表として闘っている日本のため。と思うと、自分勝手にあきらめることはできません。

アメリカは、一人一人の選手の力では、数段上だったかもしれません。しかし、日本は、チームとして一つの繋がりのある線になっていました。そのつながりを生んだのが、誰かのために闘う思いだったのではないのでしょうか。まさしく、チームスポーツの勝利だった気がしたのでした。

